

Velo-city 2007 ミュンヘン会議

2年毎に欧州地域に於いて開催されている標記自転車専門家会議が、2007年6月12日(火)～15日(金)の4日間、ドイツ・ミュンヘン市で開催された。

【Velo-city 2007】

主催：ドイツ連邦交通建設省、ミュンヘン市、欧州サイクリスト連盟（以下、ECFと表記）

会場：ガスタイク文化センター（ミュンヘン市内）

会期：2007年6月12日(火)～15日(金)

ワークショップ（発表分科会）： 161

発表者：分科会161人、その他（開会式、全体会議、閉会式）32人

参加者数：51カ国 958名

（2001年エジンバラ/グラスゴー会議；489名、2003年パリ会議；726名
2005年ダブリン会議；459名）

小間出展数：35団体・社

1. 会議概要

今回の会議は、「生活向上」、「雇用促進」、「都市開発」及び「健康」という4つのテーマに基づき、輸送機関としての自転車の役割やその可能性について、様々な施策や促進策を紹介するため161のワークショップが開催された。発表者の殆どは欧州地域の地方自治体の自転車政策担当者や学術機関の研究者、NGO関係者等であった。北米やアジア地域からの発表者も散見されたが、残念ながら今回は日本の発表者はいなかった。参加者は958名を数え、過去3会議と比べても最大となった。



会場正面



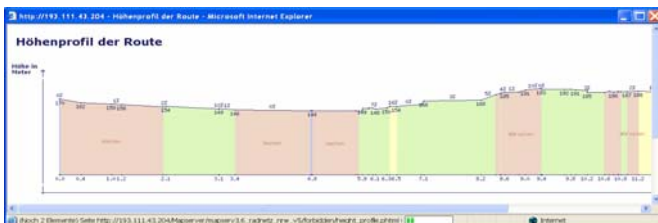
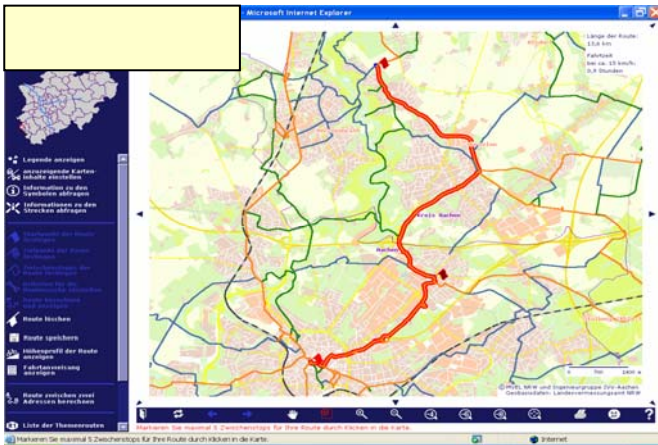
ワークショップ（NRW州・ロンドン氏）

ワークショップ発表者は、3名でひとつのグループを構成し各人の持ち時間は20分、計60分の発表後に30分間で質疑応答を行う形式である。時間的に制約があり1人当たりの発表時間が短いように思われるが、更に詳しい内容が知りたい場合は、多くの団体が関連のホームページを運営しているので、そこへアクセスすれば情報を入手できるようになっている。

なお、各会議室周辺ロビーには、ドイツ連邦交通建設省、ミュンヘン市、ECF、DB（ドイツ鉄道）やノルト・ライン・ベストファーレン州（以下、NRW州と表記）を始めとする各種団体、シマノ、ハーキュレス、ブッシュ&ミラー等の自転車関連業者なども小間を出展していた。また、デンマークのペデルセン（復刻版）というかなり趣味性の高い自転車を出展しているブースもあり、このイベントがサイクリストの集いであることを改めて知らされた。期間中これらブースでは様々な情報発信が行われ、意見交換の場ともなっていた。

2. ワークショップ

数多くのワークショップ中でも、当協会事務所があるドイツ NRW 州のインターネットでの自転車ルート検索システムについては、写真・図表を多用し分かりやすい資料が用意されており、大変好評で発表後には聴講者の質問攻めにあっていた。同州の他にも地元ミュンヘン市のほか、フランクフルト市やブレーメン市の自転車交通政策担当者が、ルート検索システムやサイクリング促進施策を紹介していた。



改めてドイツでの自転車ツーリングの人気の高さと、各自治体のサービスの充実振りを認識した。ブレーメン市では、通勤者 130,000 人の 85% は自動車を利用しており、同市では自転車通勤者を増やしたい意向である。フランクフルト市のルート検索システムは NRW 州のものと類似点が多く、このような検索システムが各コミュニティ内だけでなく、それぞれ連携を深めれば、一層利用価値が高まると考えられる。

ドイツ連邦政府が進めている国家自転車利用計画（2002-2012）のもとで、これら個々の施策の統括的な発展が望まれる。

NRW 州 バイシクルルートプランナー （検索ルートとその高低表）

自転車道整備計画やサイクリング促進策なども紹介された。これらの国々では冬季はサイクリングが出来ないが、レジャーとしてのサイクリングの人気は高く、北欧自転車市場では付加価値の高い商品の購入層も見込まれるため、需要拡大に向けてこれら都市のサイクリング促進施策にも期待したい。

また、ノルウェー・オスロ市、フィンランド・オウル市といった北欧諸国の都市の

更に、2012 年にオリンピック開催を控えたロンドンの都市交通政策も興味深いものであった。現在、ロンドンの移動手段は、自動車 42%、徒歩 21%、バス 18%、地下鉄 10%、鉄道 5% で自転車はたったの 2% である。市内には 1 日 300,000 人の自転車利用者がいると推測されるが、そのうちの 46% の人々は 1 日の走行距離が 1 マイルに満たない。同市では自転車道路を整備することにより自転車利用者拡大を目指すロンドン・サイクリング・アクションプランを 2004 年より開始している。これは中心市街地の慢性的な交通渋滞、自転車道路網

整備に悩む他の都市にとっても示唆に富むものであるといえ、今後、その成否が注目される。

3. レンタ・サイクルーCall a Bike

参加者の市内移動手段として、DB Rent 社（ドイツ鉄道のグループ企業）のレンタ・サイクル「Call a Bike」が用意されていた。Velo-city 会場正面広場に勢ぞろいした Call a Bike は圧巻であった。開催期間中は、市内のいたるところでこの自転車を見かけた。ホテルと会場の往復だけでなく、2 kmほど離れた 1,000 近い参加者が一堂に食事が出来る昼食会場への移動にも自転車が利用された。

また、13 日（水）夕刻からは合計 8 つの参加体験型の見学コースが用意され、あるコースでは 3 時間かけて 30km 程市内を自転車で走り駐輪施設や自転車道を見学した。他には徒歩や自転車よる市内観光コースなども用意され、多くの参加者がミュンヘン市内のサイクリングを楽しむことができた。実際の走行時には 20 人程度の小グループに分かれ、先導・案内役は地元 ADFC（ドイツ・サイクリスト・クラブ）のメンバーが行っていた。また、ミュンヘン市内の自転車道が詳細に記されたサイクリングマップも全参加者に配布された。

今回ミュンヘン市は、市長自ら開会式・閉会式に参加するだけでなく、普段は一般公開していない特別会場でレセプションを主催する程の力の入れようであった。このような同市の全面的な協力支援のもと Velo-city2007 ミュンヘン会議は成功を収め、参加者の運営に関する評価は良好であった。

なお、次回の 2009 年 Velo-city 開催地はベルギー・ブラッセルである。



会場正面に並ぶ Call a Bike。それぞれ Velo-city 参加者専用の番号が割り振られていた

（デュッセルドルフ事務所）